

最終集計結果

確定値

「図書館休館による研究への影響についての緊急アンケート」

(4/17～4/30確定値)

2020/05/03 Sun.

「図書館休館対策プロジェクト」

※本プロジェクトについての説明はこちら

<https://closedlibrarycovid.wixsite.com/web-site>



• 本資料の目次

1. 調査結果のポイント
2. 調査結果に基づく要望書
3. 調査概要
4. 回答者の特徴
5. 調査結果

※「最終集計結果（単純集計表）」もぜひご覧ください。

※「最終集計結果（単純集計表）」もぜひご覧ください。

1. 調査結果のポイント

① 研究への影響

- ✓ 図書館休館で研究に「非常に重大な影響がある」人が約6割
- ✓ 卒論・修論・博論提出に「間に合わない」学生が約7割

② 利用している代替手段

- ✓ 必要な文献を「私費で購入」が6割強
- ✓ 「オンラインデータベース・電子ジャーナル」の利用が約6割

③ 研究を続けるために望む支援

- ✓ 「デジタル化資料の公開範囲拡大」を望む人が7割超
- ✓ 非来館型の貸出サービスを望む人が7割超



2. 調査結果に基づく要望書

- 教育・研究への緊急支援施策を求める要望書（第1次）のポイント
 - ✓ 「デジタル化資料の公開範囲拡大」
 - ✓ 「各種オンラインデータベース・電子ジャーナル等の拡充」
 - ✓ 「教育・研究に関する各種期限の延長、基準の緩和」
 - ✓ 「非来館型の貸出サービスの実施に向けた段階的準備」 等を予定
- ⇒ 文部科学省高等教育局・文化庁・国立国会図書館・図書館関連団体・大学関連団体・著作権関連団体等に対し、5月7日（木）に発送予定（メール＋郵送）
- ※要望書は同日公表予定です。細部は変更になる場合がありますのでご了承ください。

※「最終集計結果（単純集計表）」もぜひご覧ください。

3. 調査概要

調査目的	新型コロナウイルス感染拡大の影響による図書館の休館やサービス縮小が、研究（※）の実施に生じている困難の現状を明らかにすること。 （※）「研究」には、研究者（大学・民間企業等の所属は不問）や学生（大学院生・大学生・研究生等）によるものなど、広範な意味での研究活動を含めています。
調査対象	広義の研究者（大学・民間企業等の所属は不問）及び学生（大学院生・大学生・研究生等）
有効回答数	2,519名 （←中間集計時点：1959名）
調査期間	2020年4月17日（金）～2020年4月30日（木）
調査方法	インターネット調査（メールリスト、SNS、ウェブサイト等を利用）
調査主体	「図書館休館対策プロジェクト」 (https://closedlibrarycovid.wixsite.com/website)

4. 回答者の特徴

- 回答者2,519人のうち、
 - **所属：大学に所属する人が90.4%**
 - 肩書：学生（大学院生＋大学生＋研究生）が58.9%
 - **専攻：人文・社会科学系*が85.2%**
 - *専攻分野「総合人文社会」「人文学」「社会科学」の合計
 - ✓本アンケートは主に「**大学に所属し人文・社会科学系分野を専攻する者**」の状況を反映したものであることに留意
- 居住地：全国46都道府県＋海外（最多は東京都36.8%）
- 普段から研究のために図書館を「**週1回以上**」使う人が**59.5%**、「2週間に1回程度」使う人が23.7%



5. 調査結果

① 研究への影響

- 回答者2,519人のうち、

- ✓ 図書館休館が研究に「非常に重大な影響がある」人が57.5 %

- 大学教員・非常勤講師からは、教育（講義準備や学生指導）への深刻な影響を懸念する声も多数

- ✓ 「研究全般の継続が難しくなる」人が37.0%、 「研究者としてのキャリア形成が困難になる」人が29.4%

- 研究の質の低下を懸念する声も多数

- ✓ 卒業・修了年次の学生760名のうち、 「卒業論文・修士論文・博士論文等の提出時期に間に合わない」人が70.3%



5. 調査結果

② 利用している代替手段

- 回答者2,519人のうち、**利用している代替手段**として
 - ✓ **「私費で必要な文献を購入している」人が65.4%**
 - ✓ 「公費（科研費、研究費、経費等）で必要な文献を購入している」人が20.7%
 - ✓ 「オンラインデータベースや電子ジャーナル等を利用して研究している」人が60.8%
- ✓ **「代替手段がなく何もできていない」人が10.6%**
 - 購入できない資料・電子化されていない資料が必要なため、**利用している代替手段では不十分**という声も多数



5. 調査結果

③ 研究を続けるために望む支援

- 回答者2,519人のうち、**研究を続けるために望む支援**として
 - ✓ 「**デジタル化資料の公開範囲拡大**（例: 国立国会図書館内限定送信の資料を館外利用可能にする等）」 **を望む人が75.7%**
 - **オンラインデータベース等の公開範囲・アクセス権の拡大**を望む声も多数
 - ✓ 「研究目的の文献について、**来館を伴わない文献の貸出しサービスの実施**（例: 文献の郵送や一部電子化等）」 **を望む人が73.0%**
 - ✓ 「研究目的の文献について、**館内閲覧を伴わない貸出しサービスの実施**（例: 事前予約した文献の受取のみ等）」 **を望む人が66.3%**